

野瀬建築便り

によとど 憧れの仁淀ブルー

西日本最高峰、石鎚山の山麓を源流とし、高知県のほぼ中心を流れる仁淀川。全国一級河川の水質ランキングで1位に選ばれた、どこまでも青く澄んだ河川です。仁淀川を訪れて写真を撮り続けたカメラマンが「仁淀ブルー」という言葉を提唱したといわれています。近年、とても人気を集め、澄んだ青色をひと目見ようと、多くの人がこの地を訪れています。

仁淀ブルーは初夏や真夏のイメージがありますが、実は2月から8月にかけては藻が繁殖するので緑がかかった色に見え、神秘的なブルーには会えません。8月中旬以降、初秋から1月にかけて水の色が澄んだ青になり、特にこれから、紅葉と一緒に楽しめる絶好の季節を迎えます。

紅葉と仁淀ブルーでおすすめなのが、安居（やすい）渓谷です。仁淀川の支流、安居川の上流にある渓谷で、美しい透明

な水の流れと、赤や黄色に色づいた渓谷が約10キロに渡って続いています。中でも水晶淵は、川底まで青く澄んだ水が漂い、息を呑むような美しさです。エメラルドグリーンから、だんだんと深い場所へ向かって濃くなるブルーの水面は、まるで宝石のグラデーションを見ているようです。

仁淀川の支流、枝川という川にある、ここ淵は仁淀ブルーの代表的なスポットです。急な階段を下りていくと、突然目の前に広がる神秘的なブルーの世界。太陽が真上に登る正午ごろになると、キラキラと宝石を敷き詰めたように輝きます。淵のそばに立つと、吸い込まれるような深い青。心が洗われるような爽やかな気分になります。

時間ができたら憧れのブルーに会いに行ってみませんか？ きっと新しい発見があるかも。

